

1 1学期振り返し

第1回定期テストを終え、令和5年度1学期も後半に入りました。これまで部活動に打ち込んできた3年生の中には、インターハイ予選や各種大会等で引退し、勉強や進路実現に向けて本腰という人もいます。これからというみなさん、これまでの努力の成果を発揮して、全力で悔いのないよう臨んでください。

1・2年生のみなさん、2年後・1年後の自分の姿をイメージしながら、毎日を大切に、こつこつと微差を積み上げていきましょう。「未見の我」を見つけることがきっとできると思います。

2 「勉強が面白くなる瞬間」によるこそ

最近読んだ本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。



『勉強が面白くなる瞬間』は、ごく単純な真理を紹介する本です。

勉強は「頭」でするものでなく「心」でするものです。つまり、勉強で驚くような軌跡を起こそうと思うなら、常に自分の心を見つめる必要があるのです。勉強したくてたまらなくなれば、人から言われなくても、自分から「勉強の面白さ」にどっぷりと漬かるのは当たり前のことです。私はこの真理に気付いてから、自分でも信じられないくらい、人生が大きく変わりました。ただ「心」を入れ替えただけなのに。しかし、この真理は私が作ったものではありません。ずっと昔から存在していたもののなのです。

心不在焉 視而不見 聴而不聞

心ここにあらざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず

2500年前の中国で、『大学』という書物を書いた勉強のマスターたちは、このように「心」の重要性を正確に見抜いていました。いやいや机に向かい、しかたなくぼんやりと本を見ていても、しっかり見ていることにはなりません。先生の話も、ただ聴き流しているだけでは、きちんと聞いていることになりません。心ここにあらずでは、机の前に10時間座っていても、勉強したことにならないのです。勉強にはしっかりした「心の姿勢」が必要です。

いまここで、「勉強が進まなかった日」のことを思い出してみてください。気が散って他のことばかり考えているから。うんざりして気持ちが乗らないから。気が抜けて脱力してしまったから。胸が躍るような緊張感が感じられないから。根拠もないうぬぼれに浸り、穴の空いた風船のように心から決意が抜けていくから。とにかくやる気が全く起こらないから……。考えれば考えるほど、すべて「心の乱れ」のせいです。

逆に、「勉強が上手に進んだ日」のことを思い出してみましょう。ぶれることのない「どっしりした心」、雑念の混じらない「完全な心」、ふらふらしない「落ち着いた心」を持って勉強した日だったでしょう。それは「目標に向かって集中した心」のおかげです。

誰でも訓練しさえすれば、心を目標につなぎ留めておくことが可能です。自分が勉強する「理由」と「意味」を、もう少し深く考えてみればいいのです。

「今の勉強は、自分の人生に本当に必要なのだろうか？」

「どうすれば面白く、楽しく勉強ができるのだろうか？」

「自分の夢を叶えるために、いま何をすべきなのか？」

(パク・ソンヒョク著 吉川 南 訳『勉強が面白くなる瞬間』から)